

かなざわちゅうおう

金沢中央地区 (四期)

(石川県金沢市)

- 計画期間 令和3年度～令和7年度
- 面積 860ha
- 交付対象事業費 4,627.4百万円
- 市人口 447,209人

ポイント 既存の市有地を有効活用し、まちなかに文教施設を整備することにより、市民の利便性の向上と都市機能の増進を図る。

地区概要 金沢城を中心とした中心市街地として、数多くの歴史文化資産が集積し、また、商業、業務機能の中心的役割を果たす重要な地区である。

目標 誰もが暮らしやすく、にぎわいと交流が生まれ、過度に自動車に依存しない中心市街地を目指す。

指標

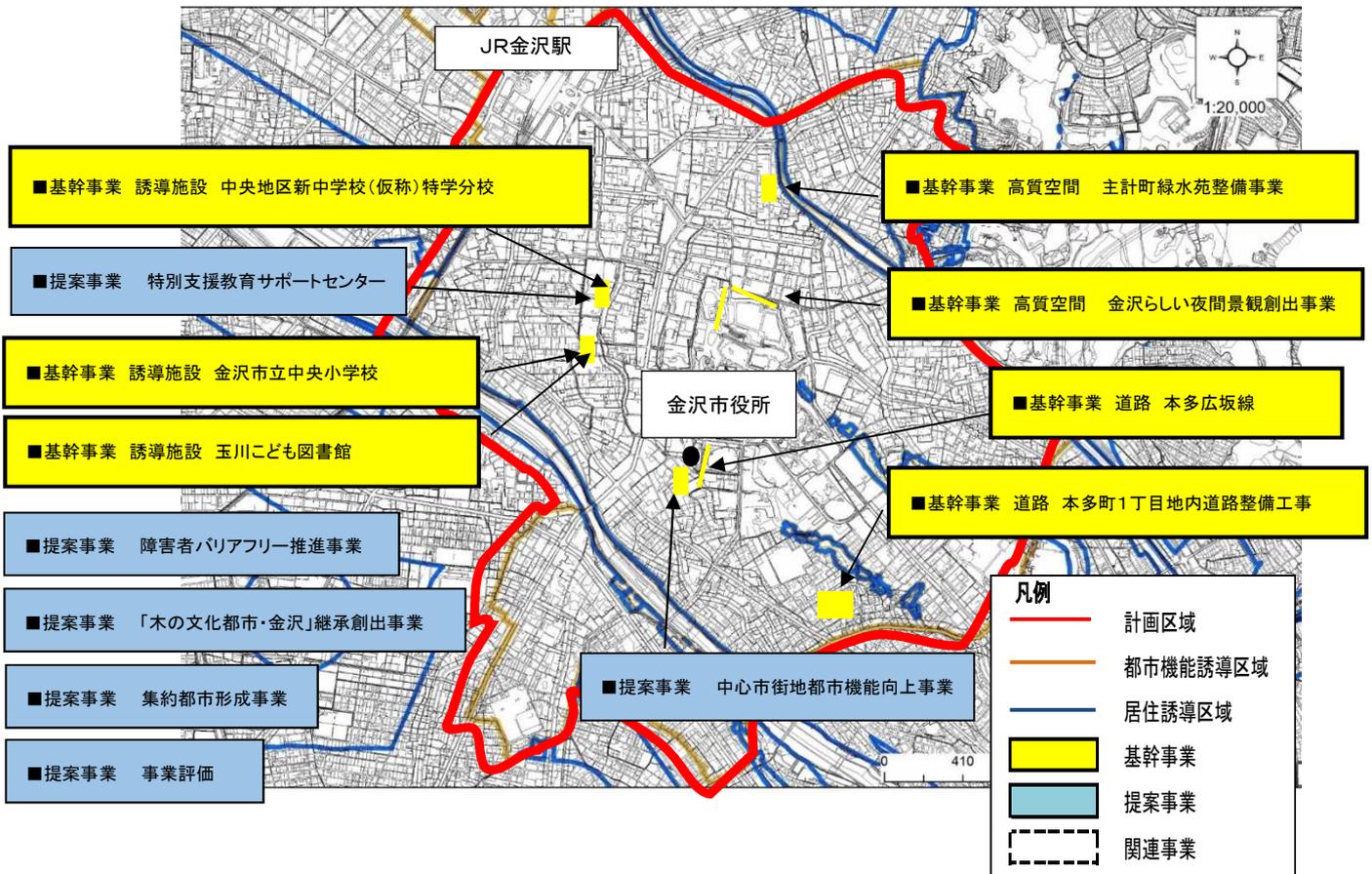
定住と交流の促進結果を測る指標として、中央小学校総児童数、外国人宿泊客数、特別支援学校就学相談数、こども図書館利用者数を設定。

中央小学校の総児童数	468人/年(R3) → 503人/年(R7)
外国人宿泊客数	613,076人/年(R1) → 821,000人/年(R7)
特別支援学校就学相談数	301人/年(R1) → 350人/年(R7)
こども図書館の利用者数	211,742人/年(H30) → 243,000人/年(R7)

事業内容

基幹事業(4,095.4百万円)→道路(幅員3m~14m、延長1,060m)、緑地(1か所)、誘導施設(3か所)

提案事業(532百万円)→地域創造支援事業(2か所)、事業活用調査(2か所)まちづくり活動推進事業(1か所)



地区の現況と課題

金沢城址を中心とした藩政期の城下町区域であるとともに、市内交通の要衝にあたり、業務・居住機能や公益施設等が集積している地区である。しかし、郊外部への大型店舗の進出や都心部の交通渋滞、人口のドーナツ化現象に伴い、都心部の空洞化が進行し、まちなか定住人口の減少や商店数・事業所数の減少など都心活力が低下しつつあった。

これまでの整備計画に基づき、各種事業を推進してきたことにより、地区内人口及び歩行者通行量の下げ止まり傾向が見られ始めているが、低未利用地の増加や中心市街地の超高齢化などの課題も残されており、まちの魅力向上やまちなかの回遊性向上に寄与し交流人口の拡大を図る、各種事業を継続して展開する必要がある。



金沢市中心市街地

計画策定プロセス

本計画の上位計画として中心市街地活性化基本計画が策定されており、以下プロセスを踏まえている。

実施事業の進捗状況の把握

統計資料の分析により前回の基本計画（５年間）における事業の成果を集計し、効果を検証した。

市民アンケートの実施

前回基本計画の市民評価や今後の中心市街地に必要な要素、まちづくりへの参加意識などの調査を行った。

事後評価委員会

これまでの都市再生整備計画の実施過程、課題・指標の達成状況をもとに、今後のまちづくり方策について有識者、住民による意見募集を行った。

< 3期までの計画を踏まえ >

3期計画において、北陸新幹線開業後も引き続き、歴史的まちなみや建造物群の保存、無電柱化、用水沿いの修景整備により、まちの魅力向上を図った。

4期計画においては、既存の市有地を有効活用し、公共施設を整備することにより、市民の利便性の向上と都市機能の増進を図るとともに、子育て世代を中心としたまちなかの定住人口増加に繋げる。



中央地区新中学校（仮称）特学分校 パース



玉川こども図書館